

競技注意事項

1. 本大会は2022年度 公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって競技を行う。
2. 練習は指定された練習会場を使用する。その他、審判員・競技役員への指示に従うこと。
3. 競技者の招集について

- (1) 招集所は競技場第1ゲート付近(100mスタート付近)に設ける。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてその競技開始時刻を基準とし、下記の通りとする。

種目	招集開始時刻	招集完了時刻	種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	30分前	20分前	走高跳	55分前	45分前
フィールド競技	40分前	30分前	棒高跳	70分前	60分前

- (3) 招集方法

- (ア) 競技者は出場種目の招集開始時刻がきたら招集所で点呼を受ける。
- (イ) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- (ウ) 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認する。
- (エ) 競技を棄権する競技者は、TICへ事前に申し出ること。
- (オ) 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。

4. 競技場への入退場について

- (1) 入退場は必ず競技役員への指示に従うこと。競技者以外はトラック、フィールド内に立ち入ることはできない。また、本部前(メインスタンド下の通路)の通行は禁止とする。
- (2) トラック競技出場者は、フィニッシュ後、第2ゲートを通り退場する。ただし、スタート地点に荷物を取りに行く必要がある場合は、第1曲走路外側及びバックストレート外側を通り、スタート地点まで戻ることができる。
- (3) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員への指示に従うこと。

5. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスはTR5.7及びTR.5.10のとおりとする。
- (2) トラック競技出場者は、腰ナンバー標識を招集所で受け取り、右側後方に付けること。
- (3) 4×400mRの腰ナンバー標識は招集所で受け取り、第2・第3走者は左側に、第4走者は右側後方につけること。
- (4) 3000m以上の競技(競歩も含む)は、プログラム記載のアスリートビブスを持参し点呼を受け、その後競技者係で配布されたアスリートビブス及び腰ナンバー標識を使用すること。

6. 走路順・試技順について

- (1) トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載通りとする。なお、番組編成では学校の重なりは考慮しない。
- (2) 準決勝以降のトラック競技の組み合わせ及び走路順、フィールド競技の試技順は、番組編成員により公正に抽選し決定する。

7. 同タイムでのプラス進出者確定について

- (1) 800m以下の距離のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは写真判定を拡大し、細部(電気計時1/1000)まで読み取り着差を判定する。
- (2) 判定が不可能な場合は救済レーン(第1レーン)を使用するが、対象選手が救済可能なレーン数を上回る場合は、本人か代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲でスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
- (3) リレーを除く1500m以上のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは、着差判定は行わずに対象者全員を次のラウンドに進出させる。

8. 競技について

- (1) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (2) リレー競走に出場するチームは、ラウンドごとにTICでオーダー用紙を受け取り、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻1時間前までに、オーダー用紙を競技者係(招集所)に提出すること。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。
* 申告したオーダー用紙の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
* 招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更(オーダー用紙の差し替え)は認められない。
* 医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成(走る順番)の変更は認められない。
- (3) 男女の競歩競技においては制限時間を設ける。男子32分、女子38分以内に4600mを通過できなかった者は、競技を中止させる。
- (4) TR16.8により、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、審判長がイエローカードを示し警告を与える場合がある。同一種目において2枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、以後の種目の出場を妨げない。

- (5) 競技用靴は、TR5.2を適用する。ただし、フィールド競技の靴底の厚さについてはこれを適用しない。よって、記録は国内でのみ通用するものとなり、WAへの申請も行わない。しかし国際競技会への参加資格となり得る記録が出た場合は、競技終了直後に全員のシューズを検定する場合がある。
- (6) CR18.5及びTR16.5に関する「スポーツマンにあるまじき行為」や「不適當な行為」が認められた場合には審判長の権限により警告が与えられる。これに該当する警告を2度与えられた競技者は失格となり、それ以降の本競技会における全ての種目への出場権を失う。また、監督・コーチ等にも警告が与えられる場合がある。
- (7) 競技者に対する助力は、TR6.に準ずる。コーチングエリアやスタンドから助力を与える場合はマーシャルか当該種目の競技役員の指示に従い、競技運営や他の競技者の妨げにならないように注意すること。また、コーチングエリアでは、映像機器の画像を競技者に見せることは出来るが、手渡すことは出来ない。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、声を出しての応援、集団での応援を禁止とする。悪質な場合はイエローカードの対象とする。
- (8) A B決勝で行われるトラック競技はB決勝から行い、入賞者はA決勝からとする。
- (9) 三段跳びの踏み切り板は、砂場から男子は11m、女子は9mの地点に設置する。
- (10) フィールド種目はタイマーを使用する。

9. 抗議について

- (1) 競技中に起きた競技者の結果及び行為に対する抗議は、当該競技者の監督により、その種目の結果が公式発表されてから30分以内、当日に次のラウンドが行われる場合は15分以内に行われなければならない。（その時の基準時刻は、場内アナウンスでの結果発表が終了した時刻とする。）抗議者はTICに申し出た後、口頭で審判長に抗議を行うものとする。
- (2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。抗議者が審判長裁定を不服としてさらに上訴する場合、上告申立書（大会本部に用意）に必要事項を記載し、預託金10,000円を添えて申請すること。

10. バーの上げ方について

て

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。

種目	練習	1	2	備考	
男子走高跳	予選	1m65	1m70	1m73	
	決勝	1m70	1m73	1m76	以降3cm刻みとする
女子走高跳	予選	1m40	1m45	1m48	
	決勝	1m45	1m48	1m51	以降3cm刻みとする
男子棒高跳	決勝	2m90	3m00	3m10	以降10cm刻みとする
女子棒高跳	決勝	2m10	2m20	2m30	以降10cm刻みとする

- (2) 走高跳・棒高跳で第1位を決めるバーの上げ下げは、走高跳では2cm棒高跳では5cm単位とする。

11. 予選通過記録

	走高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	1m73	6m40	12m60	11m00	34m00	33m00	46m00
女子	1m48	5m00	-	9m00	26m00	-	31m00

※ 天候その他によって通過記録の変更もありうる。

- 12. 競技に使用する用器具は、棒高跳ポール以外全て主催者が用意したものを使わなければならない。やりは検査を受けて通ったものを使用することができる。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。
* やりの検査について…検査時間は、各日程8:30~9:00までの間にTICにて実施する。ただし、借り上げすることができるやりは、プログラム記載の「投てき器具一覧」に記載のないやり、または複数本無いやりについて認めるものとする。借り上げたやりは決勝終了後、投擲審判員がTICに持参し、TICから当該選手に返却する。
- 13. 各種目3位までの入賞者は結果発表後に表彰する。4位~8位の入賞者は、競技場エントランスホールで賞状を受け取る。なお、全競技日程終了後、男女各1名優秀選手を選出し表彰する。
- 14. ケガや体調不良に関しては、応急処置のみ大会主催者で行う。
- 15. その他
 - (1) テント設置場所は、事前に決定しているスタンド割り振りの場所に設置すること。
 - (2) 各学校のテント設営は、テント付属の取扱説明書（マニュアル等）に従って、しっかり固定すること。